

IATSS三十周年によせて

IATSS 30年

山田卓生 日本大学法科大学院教授・横浜国立大学名誉教授



1960年東京大学法学部卒。62年同大学院修了。73年ハーヴァードロースクール卒。中央大学、横浜国立大学教授などを経て、日本大学法科大学院教授。弁護士(第二東京弁護士会所属)。専門は民法財産法、比較法、法社会学。

IATSSへのお誘いを受けたのは1986年であるからもう20年近く前である。自動車事故の損害賠償(民事責任)法、道路管理と国家賠償、自動車の製造物責任などを研究し、船員労働委員会の公益委員として海上運送、船舶安全の実務に関係していたから、ごく自然に、交通と安全の問題に入っていくことができた。

IATSSでは、何よりも日ごろの仲間とは異なった分野の専門家と、立ち話ではなく、ゆっくり話し合う機会ができたのはいろいろな意味で大きな収穫であった。同じ交通と安全の問題でも法律家の見方と、エンジニア、心理学者、社会学者の見方、捉え方がどのように違うのかも学ぶことができた。

法律では、一般に過去におきた問題(事件)をどうするかといった、いわば後ろ向きの議論が多いのに対して、IATSSでは前向きに、将来構想(vision)、提案(proposal)を考える点で夢があり、気楽さと遊びがあった。

また当時は月例懇談会があり、外から招聘した各界の専門家の話を聞く機会があり、いわば耳学問でいろいろ学ばせてもらった。

グループ研究では、道路問題、土地問題、安全の考え方など、いくつかのグループで毎月研究会で議論を重ね、学界とは違った楽しい勉強をさせてもらった。

IATSSではどうしても車中心になるが、四面海に囲まれた日本は、物流についても、旅客についても、海運がきわめて重要な役割を果たしている。海の安全については、陸と違った問題があり、もっと研究がなされてもいいように思う。

IATSSの仲間は、ざっと数えてみると100人に近い。岡部冬彦さん、斎藤茂太さんのような著名な方から洒脱なお話を聞くことができたことを楽しく思い出す。また晩年の宗一郎氏にお目にかかったのも今では遠い記憶である。残念ながら、八十島会長、そしてごく最近、岡先生、船津先生、中川先生、大蔵先生らがなくなられたが、それぞれにあれこれ思い出す。わたくしにとって今も貴重な人的資産になっている。

もう一つIATSS Forumの講師として鈴鹿に行き、東南アジア(タイ、マレーシア、インドネシアなど)の若さあふれるエリートに、日本の法と法制度の講義をしたことが思い出される。日本のことを実によく理解してくれたし、私としてもいろいろ学ぶことがあった。文字通り「教えることは学ぶこと」であった。

最後に記しておきたいのは、きわめて個性的なメンバーの活動を実によく支え助言して下さった事務局メンバーへの感謝である。とうてい裏方なんていうものではなく、むしろ表方でさえあった。本社人事でほとんどが数年で交代されるが、昔の仲間を含め皆さんの暖かい心遣いは忘れがたい。

30年の輝かしい伝統を踏まえ、これからの50年、いや100年の発展に期待したい。